



育てよう地域力 ～子どもたちの成長のために～

丹羽潤哉、木村剛史、磯川真澄、伊藤あい、加野善久、岩田裕史、吉村由美子、岡あすか

1. 本荘小学校について

本荘小学校は、1873年(明治6年)に設立され2020年度で148年目を迎えました。2020年度の児童数は567名です。日本で初めて「歯の塔」が設置された(1969年)学校です。自治会をはじめ地域の方々が児童の成長のために尽力頂けており、児童は安全に元気に学校生活を送ることができています。私たちPTAは、これまで培った地域力を今後も継続的に育てていくために、学校・地域と連携し、子供たちの成長のために楽しく活動することを大切にしています。

2. 地域と連携した取り組みについて

各行事では学校と各種団体とのつなぎ役になることを意識してきました。校区民運動会では、地域の方と会場を盛り上げ、見学に来て下さった先生方に急遽出場してもらい、普段見られない先生の全力疾走に児童たちの笑顔が溢れました。

地域と連携した主な活動として2点紹介します。

①本荘大家族ふれあい広場

1999年10月から毎年「本荘大家族ふれあい広場」を行っています。地域の各種団体やサークル等の方が講師となり、工作・スポーツ・歴史・道徳等様々な講座を開いています。講座数は現在31あり6年間でも回り切れない数です。児童からは授業と違った経験ができ、大変好評です。今年度は開催後初めて中止となってしまいましたが、家庭で学べる内容を紙面にまとめ配付しました。

②防災訓練

土曜授業を活用し、地域の方々と防災について学びました。地域の協力により様々なブースを設けることができ、防災について幅広く学ぶことができました。定期的な訓練により災害を身近に感じ、いざという時に自ら考え行動できる力を養っていきたいです。

3. 地域連携への課題について

昨年度までの活動を通じ、PTAとして子どもたちと地域や学校とのつながりをより強固にすることは貢献できたと感じている中で、各行事や懇談会への

PTA会員(親)の参加率は低調でした。そのため、親と家庭、学校と家庭との連携については今後PTA活動の課題として取り組んでいきます。兄弟家庭が多いことや共働き家庭の増加等会員の参加が難しい行事もありますが、地域や学校、会員同士の交流は子どもたちの成長にもプラスに働くと考えられるため、参加しやすい場の提供づくりに取り組んでいきます。

4. 環境変化に対する対応について

①新型コロナウイルスに対する対応について

今年度はPTA加入への意思確認のため承諾書を作成し、学校再開後、対象者全員の加入意思を確認することができました。総会は書面にて開催しました。議案には、会則に総会を書面開催で行える文の追加や今年度の会費の徴収金額の削減等を加えました。予算では、行手中止分を主に環境整備費用に充当しました。書面にすることでこれまでの口頭での説明より分かりやすかったとの意見もありました。この経験を活かし、丁寧な運営を心掛けていきます。

②執行部会メンバー等の選考方法について

家庭環境の多様化により、役員や委員等の決め方の見直しをしています。同意のないくじ引きはしない、意欲のある方は何回役員に立候補して頂いてもよい等できるだけ参加しやすいPTA活動となるよう少しずつですが改善しています。今年度の執行部会メンバーの選考では、立候補希望者を初めて紙面にて全会員に募り、結果として数名の方に立候補頂きました。また、今年度の学級委員決めでは、立候補希望が例年より増え、例年、立候補が少ない高学年でも過去の学級委員経験者が再度立候補して頂くことができました。

③会員の意見を聞く活動について

近年懇談会への参加率が低く、今年度は行事が少ないこともあり、例年以上に会員間の交流が図りにくいため、配付物にはできるだけ質問等の欄を設け、意見を頂くようにしています。その結果、感染症等への不安や日頃のPTA活動への問題等様々な意見を頂きました。頂いた質問には学校や執行部メンバーの考え方をまとめ報告し会員間の意見交流に努めています。